

## ホスピス財団 第2回 国際セミナー

# 米国の緩和ケアにおける倫理的ジレンマ



ホスピス財団主催の第2回国際セミナーが、東京と大阪の2会場で開催されました。講師の Macauley 先生より、苦痛緩和のための鎮静や、医師による死の帮助という、日本ではややもすれば避けられる傾向にあるテーマに関して、レクチャーとグループワークがもたれ、参加者と共に考える有意義な機会となりました。



- 講師：Robert Macauley 先生  
(米国オレゴン健康科学大学医学部小児科教授)
- 日時：東京会場 6月30日(土)  
大阪会場 7月1日(日)
- 参加者 東京会場 48名 大阪会場 48名

## 「米国の緩和ケアにおける倫理的ジレンマ」 第2回国際セミナーに参加して

京都大学医学部附属病院 緩和ケアセンター がん看護専門看護師 前滝 栄子



2018年7月1日に大阪で開催された、オレゴン健康

科学大学の Robert Macauley 教授による国際セミナーに参加させていただきました。前半の講義では、「無益となる可能性のある治療の要求」というテーマで、医療における‘無益性 (Futility)’ということ 키워ドとして、歴史的背景や、さまざまな定義、データなどを踏まえた説明がなされ、‘患者の権利’について深く考える機会となりました。臨床実践での医療やケア場面におい

て、倫理的ジレンマを感じることは少なくありませんが、患者にとっての最善の医療やケアについて考えていく上で、患者自身の目標は何か’ということに焦点を当て、そのことをチームで明確にし、ケアにあたっていくことが必要であると強く感じました。

深刻な場面でのコミュニケーションのあり方として、「Serious Illness Conversation Guide」というツールを紹介され、患者にとって何が重要かということ特定していくために、「(患者の健康状態が悪化してきた場合に) 患者は何を目標にしたい

か」ということ以外に、「(目標の裏側にあることとして) 患者は何を恐れているか」「将来を考えた場合に何が力になるか」「患者にとっての重要な能力は何か」「その目標を達成するために切り捨ててもよいものは何か」「家族は患者の価値観や目標についてどの程度知っているか」などを把握していくことの重要性について説明されました。これらの内容は、患者の意思決定を支援していく上でとても大切なポイントであると感じ、自己の日頃のコミュニケーションを振り返るきっかけとなりました。(次ページへつづく)

## 2018年度 ホスピス・緩和ケア ボランティア研修会



本年は、札幌市で開催されました。

講師の清水哲郎氏から、「エンドオブライフ・ケアにおける本人、家族の意思決定支援」と題して、時機にかなった講演がなされました。

また札幌在住の音楽療法士である中山ヒサ子氏からは、「音で紡ぐこころのメッセージ」と題して、音楽療法の有用性を講演されました。

…講演内容は後日ホームページで公開いたします。

■ 日 時：2018年6月8日（金）  
10:30～15:15

■ 会 場：札幌市教育文化会館

■ 参加者：122名



### 研修会に参加して

日本病院ボランティア協会理事 西井 龍子

午前、午後とお二人の先生を迎えての研修会でした。

同じ医療の現場でもありますが、医師と音楽療法士と違う立場であっても尊厳をもって支援することは同じであります。臨床の現場では死という現実がある。dying は living の最後の部分で living でありながら dying である。死の瞬間のことだけではなく人生全体の事と考えることである。

死につつあってもその方の人生であり、人としてどうしたいのか医師、看護師、家族で向き合うことこそが死の質を考えることではないだろうか。人間尊重が活きる場所こそ意思決定のケアができる。

また、療養生活の中でも音楽の存在は人生を豊かにするものであり、その方の人生を語る事が出来る。患者さんとの何気ない語りの中で引き出す思いはそれぞれの人生が輝くように思えた。奏でる音楽は自分の存在価値だったり良き思い出を振

り返ったりと、たとえ死に向かっていて時間を過ごしていたとしてもいつかの穏やかな効き目の薬に思えた。音楽と人との関係性に注視し、心と体の、さらには魂の健康に役立てることが音楽療法と唱えていたことには納得しました。

ボランティアとしての役割を明確にしたうえで、応分の責任を果たすことは難しいと思いますが、この研修会では多くのヒントを頂いた1日でした。

(前ページよりつづく)

事例検討では、治癒が困難で呼吸器疾患のある患者のケースをもとに、意思表示ができなくなっている患者の意向をどのように理解し尊重していくかという論点に基づき、参加者間でディスカッションしました。参加者それぞれの専門的立場での意見を出し合い、倫理的観点で議論しながら対話していくプロセスは、講義の内容をさらに現場に即して広げ促

え直すことができ、とても有意義な時間となりました。

後半の講義では、「死を早めることに関する倫理」というテーマで、最近のトピックとして、「PAD (Prescribing a lethal dose to a competent, terminally ill adult who can choose to self-administer) = 医師による幫助死」という概念について、米国における歴史的な議論の経緯と現状について学ぶことができました。日本ではようやく尊厳死や安楽死などの議

論が公に始まったところでもあり、さらに文化的側面の理解や倫理的思考を深めていく必要があると感じました。司会の恒藤先生より最後のコメントとして述べられていた、「最善を望みつつ最悪に備える」ために、患者の価値観が十分に尊重された意思決定支援へのケアが提供できるよう、今回の学びを実践に活かしていきたいと思えます。

## ホスピス・緩和ケアに関する 意識調査 2018 年 が発行されました。



本調査は、全国 20 代～70 代、1000 人を対象に WEB アンケート調査により実施されたもので、過去 3 回（2006 年、2008 年、2012 年）実施された調査との比較を行うとともに、新しい調査項目も加えられております。

報告書には、「延命治療に対する意識」、「配偶者とどちらが先に死にたいか」「あの世はあると思うか」など、人々の死にかかわる意識や死生観・宗教観など深い内容も多く報告されております。

新聞、TV などマスコミの関心も高く、多数のメディアで紹介されました。

ホームページで公開されていますのでご覧ください。



### 「家族と話し合い」4割止まり

「延命より痛み緩和」6割  
「延命より痛み緩和」6割という結果が、ホスピス・緩和ケアに関する意識調査から明らかになった。調査は、ホスピス・緩和ケア研究振興財団が実施した。調査対象は、全国に在住する 20 代～70 代の男女 1000 人。調査結果によると、人生の最終段階で「延命治療を受けたい」と回答した人は 10% に留まり、残りの 90% が「痛み緩和を受けたい」と回答した。また、家族と話し合いをした人は 40% に留まり、残りの 60% が話し合いをしないとした。調査は、ホスピス・緩和ケア研究振興財団が実施した。調査対象は、全国に在住する 20 代～70 代の男女 1000 人。調査結果によると、人生の最終段階で「延命治療を受けたい」と回答した人は 10% に留まり、残りの 90% が「痛み緩和を受けたい」と回答した。また、家族と話し合いをした人は 40% に留まり、残りの 60% が話し合いをしないとした。

## お知らせコーナー

### ホスピス・緩和ケアフォーラム 2018 in 大分

- ・2019 年 2 月 2 日（土）13 時 30 分～17 時
- ・大分市コンパルホール
- 詳細、申込み方法はホームページで。

### 日本グリーンフ&ビリーブメント学会 学術大会

- ・2019 年 2 月 23 日（土）～24 日（日）
- ・龍谷大学大宮キャンパス 東翼
- 詳細はホームページで。

### ホスピス・緩和ケア白書 2018 好評発売中

- 特集テーマ：がん対策基本法の「これまで」と「これから」
- 発行所：青海社 3,000 円+税
- お求めは書店で（ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております）



## 「延命より痛み緩和」6割

「延命より痛み緩和」6割という結果が、ホスピス・緩和ケアに関する意識調査から明らかになった。調査は、ホスピス・緩和ケア研究振興財団が実施した。調査対象は、全国に在住する 20 代～70 代の男女 1000 人。調査結果によると、人生の最終段階で「延命治療を受けたい」と回答した人は 10% に留まり、残りの 90% が「痛み緩和を受けたい」と回答した。また、家族と話し合いをした人は 40% に留まり、残りの 60% が話し合いをしないとした。調査は、ホスピス・緩和ケア研究振興財団が実施した。調査対象は、全国に在住する 20 代～70 代の男女 1000 人。調査結果によると、人生の最終段階で「延命治療を受けたい」と回答した人は 10% に留まり、残りの 90% が「痛み緩和を受けたい」と回答した。また、家族と話し合いをした人は 40% に留まり、残りの 60% が話し合いをしないとした。

## こんにちは ホスピス

## 早期から最期まで安心して過ごせることを目指して

聖路加国際病院緩和ケア科 部長 林 章敏

聖路加国際病院緩和ケア病棟（ホスピス）は 1998 年に開設され、今年で開設 20 周年を迎えます。病院は開設して 117 年になります。開設以来、多くの患者さん方をお迎えました。WHO の緩和ケアの定義にある姿を目標に、緩和ケアを提供しています。わたしたちの特徴は、緩和ケア科として緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟（ホスピス）を担当しているため、連携がとてもスムーズなこと。また、一部の医師は在宅医療にも携わっています。



9 月のイベント  
屋上庭園でピクニック

緩和ケア病棟（ホスピス）と記載しているのは、院内表示と同じです。早期から関わる緩和ケアと最期の時を安心して過ごしていただけるホスピスの両方の働きを大切にしたいと思

っているからです。緩和ケア病棟（ホスピス）では、23 名の看護師と 2 名の看護助手、30 名ほどのボランティアをはじめとした多くのスタッフがホスピス・緩和ケアを提供しています。わたしが書くのも気が引けますが、多くの患者さん方がここに来て、「みんなにやさしくしてもらっています。」と喜んでくださいます。もちろん、うまくいくときばかりではありません。苦情が来たり、ケアに難渋したりすることもあります。そのような時も、スタッフがみな心と思いと力を合わせて対応しています。

聖路加国際病院はキリスト教の精神で設立されています。病院の中にあるチャペル、そしてチャプレンがその象徴として患者さん方を癒し、慰めてくださいます。これからもその働き的一端を担えればと願っています。

（チャペル写真を 4 ページに掲載）

遺族会での子供プログラム：  
バルーンリリース



## ホスピス財団 2018年度 事業進捗状況報告

- ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募2件）…進行中
- 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第4次調査・3年目）…進行中
- 『ホスピス・緩和ケア白書 2019』（特集テーマの概説+データブック）作成・刊行事業…進行中
- 意思決定支援に関する背景・課題の整理と普及に関する検討…進行中
- ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業  
・実施日と場所：2018年6月8日（金）札幌市教育文化会館・参加：122名
- Whole Person Care ワークショップ開催事業  
・実施日：コースI 2018年8月4日（土）参加：22名  
コースII 2018年8月5日（日）参加：21名  
場 所：千里ライフサイエンスセンター（豊中市）
- グリーフケア研修セミナー開催事業  
・実施予定日：2019年2月24日（日）  
・場所：龍谷大学大宮キャンパス
- 高齢者介護施設等の看取り教育研修（3年目）…進行中
- 『Whole Person Care：Transforming Healthcare』翻訳事業…進行中
- 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業…進行中
- 医療者の燃え尽き症候群防止プログラム GRACE\*1 普及のための指導者研修会開催事業  
\*1：GRACE：Gathering attention Recalling intention Attuning to self and other Considering what will serve Engaging, Enacting, Ending  
・実施日：2018年6月9日（土）～10日（日） 参加：85名  
・場所：千里ライフサイエンスセンター ライフホール
- 一般広報活動事業
- 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
- ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業  
・実施予定日：2019年2月2日（土）  
・場 所：コンパルホール 文化ホール（大分市）
- ホスピス財団 第2回 国際セミナー開催事業  
・実施日と場所  
東京 2018年6月30日（土）13:30～18:30 品川インターシティホール 会議室 参加：48名  
大阪 2018年7月1日（日）13:00～18:00 梅田スカイビル・スカイルーム 参加：48名
- International Congress on Palliative Care 学会参加  
・実施日 10月2日～5日（モントリオール）
- APHN 関連事業費
- 日本・韓国・台湾 第2期共同研究事業（4年目）…進行中

### (公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 2017年度(第18期) 決算の概要

2017年4月1日から2018年3月31日まで (単位：千円)

科 目	2017年度決算
<b>【経常収益】</b>	
①基本財産運用益	3,978
②受取寄付金	28,030
（内訳） 賛助会費収入	22,685
一般寄付金収入	351
指定寄付金収入	5,000
③雑収益等	1,977
<b>経常収益計（A）</b>	<b>33,991</b>
<b>【経常費用】</b>	
①事業運営費	35,403
（内訳）ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	11,859
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	10,930
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	5,325
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,289
②一般管理費	5,858
<b>経常費用計（B）</b>	<b>41,261</b>
<b>当期経常増減額（A－B）</b>	<b>▲7,270</b>

## 寄付者一覧

(2018年3月～2018年8月 順不同、敬称略)

(団体) 株式会社 三孝社

(個人) 佐藤 恭史 白方 誠彌

## 新規賛助会員

(2018年3月～2018年8月 順不同、敬称略)

(個人) 田中 まひる 前田 隆康

神田 真巳 谷口 由利子

稗田 朋子 小屋 紘子

布川 佳要子 吉武 正美

牧村 ちひろ 大塚 久美子

大越 亜希子

(団体) 株式会社 イニシオ・ライフサービス

## 寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

**(税額控除の対象になります)**

また、「遺贈」による寄付もぜひご考慮下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。



聖路加国際病院  
チャペル

## 編集後記

6月の関西での地震に始まり、台風17号による中国四国の水害、さらに台風21号が関西を直撃、そして北海道地震。本当に心騒がす夏であった。

被災された方々の日々は、平穩に生活しているものにはわからない苦勞、苦惱があると思い、心が痛む。そのような中、被災者のQOL維持・向上の援助として多くのボランティアの方々が奉仕されている姿を見て、これもホスピスマインドの1つの実践であることを気付かされた。がん患者とその家族のみならず、ホスピスマインドの実践は、さらに普遍的なものであらねばと、改めて教えられた。

ホスピス財団がその活動を通して、なお一層のホスピスマインドの啓発と普及を担っていくことができればと願うものである。

編集子